（本號八面）　（明治廿五年三月十一日）遞信省認可　明治二十五年八月四日　（定價金二錢）

時事新報

第三千四百十二號　木曜日
明治廿五年八月四日
舊曆壬辰閏六月十二日（戊辰）
日出午前四時五十二分
日入午後六時四十一分
月出午後三時三十一分
月入午前零時十四分
滿潮午前零時四十四分
午後一時二十一分
（西曆一千八百九十二年）

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊

○時事新報社より直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄送に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐるもの寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんとを請ふ

時事新報

世界博覽會に付き日本人の用意

明年米國のシカゴ市に開設する世界大博覽會は我國特產の特色を西洋人に目擊せしめて以て歐米市上に其販路を擴張する爲めには最も屈強の好機會なれば我實業家は萬般の事に注意して博覽會場に日本物品の聲價を揚るの用意こそ肝要なれとは我輩の每度時事新報に主唱したる所なるが今この緒に續て更に所望の點を述べんに抑も今回の博覽會は兼て何事に就ても人の後に立つを好まずと評判されたる米國人のことして初めより錢を吝まず勞を厭はず畢生の力を盡して是非とも古今無比、世界第一の大博覽會たらしめんとを期することなれば其規模の壯大なる先年の巴里博覽會なども〻はで日を同ふして語る可らず開會の曉には必ず全世界の耳目を驚かすことならんと想像して間違なかる可し隨て縱覽人の數も非常の大數に達す可きは必定にして此一點に於ても亦巴里博覽會をして今更顔色なからしむることならん而して此無數の縱覽人は如何なる種類の人なるかと尋るに合衆國內の諸州は申すに及ばず大西洋の彼岸なる英佛獨露の諸國より水陸萬里の長程を冒して態々見物に來る者其多數を占るならん是等の人々は大概皆博覽會の見物旁々漫遊旅行を目的とするものにして財產に不足なく職業に忙しからず我思ふ處に行き我思ふ所に止まり各地に山水風俗の異なる有樣を見て以て樂となすものなればシカゴに數日間滯留して博覽會を見物し終る其上は米國內地の漫遊を思ひ立つ者多きは無論にして又その中には一步を進めて大平洋を渡り東洋の日本國を訪はんとする者も少からざる可し何となれば日本の景勝愛す可く其人情親しむ可きの事實は近來漸く西洋人の知る所と爲りて世界の樂園と稱し彼の國々の上流社會に於て其評判甚だ喧しく又曾て此評判に誘はれて樂園に一遊を試み其實況を目擊して失望したる者なければなり我輩の常に云ふ如く外客の來遊は日本の名聲の爲めにも利益の爲めにも決して等閑に附す可らざるものなれば明年の博覽會に世界の各處より米國に集る者の多きこそ幸なれ我國人は此好機會を空ふせずして今より大に計畫し是等の佳賓を國內に誘引するの工風專一なる可し其これを誘引するの手段は種々樣々なる可けれども先づ第一に歐米の諸新聞紙に寄稿して日本漫遊の路順、內地に於ける旅店の狀況、人力車、馬車、汽車、汽船等の賃錢、政府より旅行免狀を受取るの手續等都て始めて我國に來遊する外人の知らんと欲する事項を詳細に記し尙は博覽會開設の上は特にシカゴにエジエント（代理委員）を置き專ら漫遊の外人を日本に誘導するの任に當らしむるも宜しからん、又日本に有名なる山水の勝景若しくは神社佛閣の寫眞等を集め歐米諸國の旅店又は汽車、汽船の中など人の目に付き易き場所に備へ置くも廣告の一策として妙なる可し斯て漫遊の外客陸續我國に渡來するとともなれば之を目的に東京、大坂及び其他の諸所に物品陳列の小博覽會を設けて日本固有の物產を一定の格價にて賣捌かんには彼我双方の利益必ず少からざる可し其他或は有名なる中國の內海に特に汽船を往復せしめて外客に遊覽の便を與ふるが如き或は各地方の山野河川に鳥獸魚介の繁殖を謀りて獵漁の場處を造るが如き凡そ外國人を我內地に誘引して之に樂園の實況を示し遊樂留連して歸るを忘れしむるの方法は甚だ多かる可し世間の有志者は唯自家の私利のみに非ず間接には國家の名譽利益の爲めなりと思ひ今度の好機會を空ふせずして萬般の準備に着手せんこと我輩の呉々も希望する所なり

官報

○司法省告示第四十七號

名古屋地方裁判所管內區裁判所出張所各出張裁判ノ儀當分ノ內開廷セス

明治二十五年八月三日　司法大臣河野敏鎌

○司法省告示第四十八號

德島地方裁判所管內富岡區裁判所和食出張所出水ノ爲メ登記簿浸潤ニ付當分ノ內登記事務取扱ヲ停止ス

明治二十五年八月三日　司法大臣河野敏鎌

雜報

○伊國の財政困難、クリスピー氏の說（昨日の續き）

王國の創立されて間もなき頃より十餘年の間打續きて歲入の不足すること七億フランクに超えしことあり空前絕後の大不足にして國民の信用を賣り公債を發行するにあらざれば補ふの方便なき爲め三十億フランクの發行を見るに至れり時の內閣大臣は是等の處分に付き每年國民の同意を求めたるに國會は快く其請を容れ嘗て苦情を鳴すものなかりし其後千八百七十七年より恢復を始めて數年の間は多少の餘剩を見る程なりしに再び千八百八十五年より不足を感ずるに至れり左れども千八百六十二年より同七十六年に至るまで即ち前に謂ゆる空前絕後の不足と比しては甚だ僅少の額なりし近年漸く不足を感ずるは歲出の增したるが爲めと云ふよりも寧ろ歲入の減じたるが爲めなり事の起りを尋ぬるに千八百七十八年國民一般の經濟を整理すべしとの說大に行はれて政府は租稅徵集の組織を變改せんと企てたりしが不幸にも其精神を誤り認め實施に當を得ざりし爲め大に國庫に不利益なる結果を生ぜり麥粉稅は千八百七十九年に廢され他の穀類稅は千八百八十年に廢され續いて千八百八十五年及び同八十六年鹽の代償の下落其他の事ありし爲め國庫は一億四千八百萬の歲入を減じ其減少は自然の勢ひ更に增して今は一億六千萬を超ゆるに至れり

減稅若くは廢止稅の損失を補ふが爲め重に贅澤品等他の物品に課稅したれども目的を達する能はず是等より得る收入は以前の收入に及ばず且長く不變のものにあらざりし抑も直接稅は最も確固なるものにて政府は之に對し豫算を立つることを得れども間接稅は然らず何となれば大臣の如何ともする能はざる事情の變化によりて常に變ずるものなればなり過る二期の國會は租稅徵集法を變じて上納者を救助し國家の經濟を改良せんとしたりしが其目的執れも當らず改良も改良とならざりしのみならずして遂に大藏省の困難を生じたり

徵稅組織の失策は國庫の費用を增すの法律を公にしたる爲め尙は一層困難を大にしたり千八百七十八年即ち始めて租稅組織を改めんとする年に於て五億フランク餘の支出を要する鐵道擴張法案を國會に提出し大に全國の新舊線路を延長することゝなれり始め千八百六十一年即ち國王創立の當年伊國鐵道の現在は二千五百六十一キロメートルなりしが今は四千三百キロメートルとなり費用は增して四十三億フランクの高に上れり其外道路の修繕、河川の修築、築港等諸般の土木に費したるも甚だ少からず去る十年間の總計は六億七千八百萬の高なり是等は素より未來國運の發達に大なる利益を與ふるものなれども一時之が爲め國庫に非常の困難を感ぜしめたるは爭ふべからざる事實にして遂に前ルーヂニー侯の內閣は其支出を減ぜざるべからざるに至れり左れども聊か之を減じたる位にては到底引足るべくもあらず故に若し千八百七十九年より同八十六年に至るまでの諸法律を廢せずして今の儘に存せんとするならば租稅の改正を爲さゞるべからず是等の法律は害あるものなり如何となれば千八百八十四年一月一日より昨九十一年々末までの國庫收入金額は十二億フランクに達すべき割合なりしを以て不足を生ぜざりしのみならず幾分の餘剩を生ぜし筈なればなり

以上記する所を見れば伊國に於ける財政困難の眞原因を知るに足るべし其今日あるは兵備に關係あるにあらず況んや三國同盟に於てをや海陸軍の組織其他國防を修したるは全く他に關係なきものなり

クリスピー氏の議論は右に引續き伊國民今日の經濟の大に發達したることゝ及び移住の減じたることゝ等を序して財政困難と云ふと雖も救助に難からず同國の將來大に望みあることを論じて局を結びたれども冗長に亙るの嫌あるを以て茲に略せり　（完）

○朝鮮京城通信（七月二十二日發）

金氏刺客の風聞に就て　金玉均氏が陰に渡來して我公使館內或は居留地に潛み居るを以て朝鮮政府の心配一方ならずとの風說は一時中々熾んなりしが此頃到着の本邦諸新聞を見て愈々其
聞に散見せる權東壽氏は何
大坂滯在の韓書生は何れ
ば刺客云々の風說は必ず
願すれば客年の秋頃當地
心を買ふて自巳の利益を
建白書を作り閔泳駿氏は
氏を除くの勅許を得んと
回の刺客一條も或は此の
るか尙は本年三四月頃閔
殺害せんと企てたるもの
り居り名さへ金斗鉉と改
を誅りたれども如何なる
或は西に或は東に離散し
刺客風聞の一原因になり
今日は前者も後者も一場
陰謀絕てなきものゝ如く
存するならんか

太院君滅殺の新禱　爆
へざる處にして一兩日前
れば誠偶々該事件に移り
上の風評は如何と聞ひた
閣下自らの所爲なりと言
出でたるにはあらざるか
ふるや否や君は急に起き
ふものあるよしは夙に之
第を一考せよ我豈自ら所
語を續け聲を低ふして曰
集り我を殺さんと七日の
と聞く之を思へば寢食を
たりし由

閔應植氏の勢力　同じ閔
の免れざる處にして目下
のは泳翊氏の右に出づる
海外に在りと雖も權勢中
よりて漸く今日の地位を
決して泳翊氏の上に立つ
人物に乏しく國王よりは
上は泳翊氏の手を假るに
國を命じたれども泳翊氏
歸國する能はざれば其代
線にと返電したり國王は
は日夜國事に鞅掌し恰も
に立ち今日の政略は一も
見にて決定すと云ふ就て
辭して受けず左れど何れ
るに至るべしと云ふ

露韓の關係　露國公使ウ
略を施し名を內外に轟か
ブスキ氏代理公使として
の國際上に關する程の事
り殊に太院君邸事變に際
露米の二國は此事なかり

袁世凱氏の動靜　袁氏の
る處なるが氏が一旦販圖
る後は更に何事にも手出
主義を取るものゝ如し彼
耳にせざるの風を裝ひ居